

一エース専修

専修大学ホームページ

https://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- 文・松尾准教授 日展「書」新入選……………②
- 学生ボランティア団体が創立15周年……………③
- 内定した4年次生の就職活動体験記……………④
- 経営・中村ゼミが販促コンペ学生賞……………⑤
- 石巻専修大学 まちなか交流拠点開設……………⑦



▲文・小山内ゼミミュージカル

2026年度 入学試験

1月5日(月)
出願受付
スタート

- ★「大学入学共通テスト利用入学試験」
★前期入学試験
- ★「一般選抜」
★スカラシップ入学試験
- ★全国入学試験
★前期入学試験

出願締切日は入学試験制度により異なります。詳細はホームページでご確認ください。

https://www.senshu-u.ac.jp

入学センターインフォメーション
◆神田キャンパス TEL 03-3265-6677
◆生田キャンパス TEL 044-911-0794

卒業生・在学生18人が合格

公認会計士試験

2025年公認会計士試験の合格者が11月21日、金融庁公認会計士・監査審査会から発表された。本年度は3年次2人、4年次7人。卒業生を含め、本年度は在学生9人、卒業生9人の合計18人が合格した(11月28日 公認会計士は、監査と

会計のスペシャリストとして、企業の公正な経済活動や社会の健全な発展に重要な役割を担う。公認会計士試験は最難関国家資格試験の一つ。本年度の最終合格率は7.4%だった。本年度は1917(大正6)年に計理科を設置。

司法試験

7人が難関突破

本年の司法試験結果が11月12日、発表された。本学法科大学院の修了生及び法科大学院3年次生合計7人が合格した。2023年から法科大学院最終学年の在学中受験が可能になり、本年度は本年度最終年次在学者1人が合格を果たした。司法試験は、公認会計士試験と並ぶ最難関国家資格試験の一つ。本年度の全体の合格率は41.2%。在学中受験者の合格率は52.7%だった。

(2面に合格者 眞、合格者 インタビュー)

デフリンピック東京大会 テニス女子ダブルス

聴覚障がい者の国際スポーツ大会「デフリンピック東京大会」テニスの女子ダブルスで、本学卒業生の鈴木梨子さん(令7文、NTT都市開発)が金メダルに輝いた。

鈴木さんは、孤方里菜選手(島津製作所)とペアを組み、11月24日の決勝に臨んだ。6-1、6-2のストレート勝ちで頂点にたった。率直にうれしいうれしさを語った。特定の音を聞き分けることが難しい「感音性難聴」である鈴木さん。小学2年生からテニスを始め、中学3年時に、補聴器を外してプレーするデフテニスに出会った。「聴者の大会で結果を残すことも」にもこだわり、大学では体育会テニス部で活躍した。デフテニスでは、2023年9月の第3回世界デフテニス選手権女子ダブルスで優勝、シングルスで3位。24年1月、全豪オープン・デフ部門でシングルス4位入賞を果たした。

鈴木 梨子さん (令7文)



金メダルを獲得した鈴木さん

鈴木さんは「初めてデフリンピックの雰囲気を感じた。この中でプレーができたことを誇りに思う。ここに出場できたことにも引き続き、注目い



鈴木さんのデフリンピック・テニス女子ダブルス優勝をたたえる懸垂幕が、神田・生田両キャンパスに設置された。写真は神田キャンパス6号館。

ただけるとうれしい」と呼びかけた。デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会の主催で、4年に1度開催される。聞こえない・聞こえにくい人のためのオリンピック。今大会は100周年記念大会で、21の競技に、81カ国・地域から、過去最多の選手約3000人が参加した。

甲斐さんと佐竹教授が対談

バレーボール
男子日本代表

(経営4)

狛江市スポーツ 推進講演会

狛江市スポーツ推進講演会(東京都狛江市教育委員会主催、専修大学スポーツ研究所後援)が11月23日、こまえみらいテラスで開かれ、バレーボールをテーマに佐竹弘靖教授の講演と、男子日本代



サイン会で一人一人に丁寧に応じる甲斐さん

和やかに対談する佐竹教授(左)と甲斐さん(中央)……………

表の甲斐優斗さん(経営4)の対談が行われた。甲斐さんは本学バレーボール部に所属。2024年はチームを初の大学日本一に導くとともに、パリ五輪に出場した。現在はSVリーグの大阪ブルテオンで活躍している。

対談では日本代表や大學生生活について語り、専大での4年間を一般的な学生生活ではなかったが、いろいろなことに挑戦させてもらい、自分を成長させることができた」と振り返ると、佐竹教授は「世界で活躍する学生は、練習、授業、遠征と多忙を極めていて、時間の使い方がうまい」と話した。

対談に先立って行われた講演では、1964年の東京五輪で日本女子バレーボールチームを金メダルに導いた監督・大松博文さんの足跡を、佐竹教授が追った。

講演会には約100人が来場し、市内でバレーボールをプレーしている小・中学生の姿もあった。甲斐さんは「夢を持って、楽しくプレーしてほしい。試合では、自分がヒーローになるんだという気持ちをもって」とエールを送った。

最後に「今年はいくさんの経験を積むことができ、飛躍の年になった。来年はロス五輪の切符をかけた大事な試合がある。まずはそこを突破できるように頑張ります」と決意を述べた。